

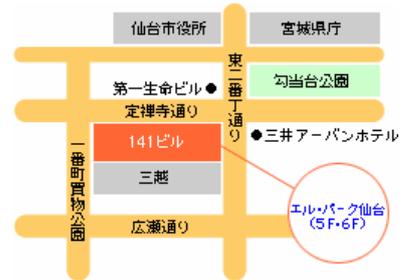
1978年宮城県沖地震30周年記念シンポジウム

—あの揺れがまたやってくる！ 今度は大丈夫なの？ 地盤情報が教えてくれるもの!!—

- 日時：平成20年6月7日（土）13:00～17:00（12:00受付開始）
- 会場：エル・パーク仙台 「ギャラリーホール」（141ビル6階）
- 定員：220名（申込先着順）
- 参加費：**入場無料**

※資料集は希望者のみ当日受付にて¥1,000で頒布予定
※頒布資料には「1978年宮城県沖地震被害総覧CD」含む

- 主催：（社）地盤工学会東北支部
- 協賛：（社）東北建設協会
- 後援：国土交通省東北地方整備局、宮城県、仙台市、（社）土木学会東北支部、（社）宮城県建築士会、宮城県沖地震対策研究協議会、（社）日本技術士会東北支部、日本地震工学会、河北新報社、NHK仙台放送局、仙台放送、TBC東北放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、Date fm（順不同）



参加者限定！

<開催の趣旨>

本年は1978年6月12日に起きた1978年宮城県沖地震から数えて30年の節目の年にあたります。この地震は再来することが懸念されており、いつ起きてもおかしくないという発生予測が政府の地震調査委員会でもなされています。地盤工学会東北支部では発生が危惧される地震地盤災害への事前対策を進めるべく関連の調査委員会を発足させて活動を続けておりますが、この活動の一環として本シンポジウムを開催します。

本シンポジウムでは地震災害に対する地盤の影響の大きさを明らかにするという観点から、現在東北支部が進めています活動の一端を報告します。さらに、1978年宮城県沖地震発生当時、災害調査・復旧に携わった方々、次のX年宮城県沖地震に備えて様々な取組みをされている方々などを迎えて、建設技術者と一般市民一体となったパネル・フロアディスカッションを実施します。討議により、過去の地震の教訓、来る地震における新たな課題、今後優先的に取り組むべき対策などを明確にすることを目的とします。

プログラム

<シンポジウム>

司会：仙頭 紀明（日本大学）

- 13:00～13:10 開会挨拶（実行委員長 神山 眞（東北工業大学教授））
- 13:10～13:30 **1978年宮城県沖地震被害と想定地震のハザードマップ**
—1978年宮城県沖地震被害総覧CDの使用法説明—
佐藤 真吾（株式会社復建技術コンサルタント）
- 13:30～14:10 **過去の地震による災害の教訓に学ぶ**
—一次の宮城県沖地震は大丈夫か？—
吉田 望（東北学院大学教授）
- 14:10～14:25 **地盤情報データベースの紹介**
池田 浩二（株式会社テクノ長谷）
- 14:25～14:40 **地盤情報からわかること**
—地震地盤災害への利活用—
風間 基樹（東北大学教授）
- 14:40～14:50 <休憩>
- 14:50～16:50 **X年宮城県沖地震の課題 ～パネル・フロアディスカッション～**
前半：コーディネーター、パネリストの話題提供
後半：**シナリオなきフロアディスカッション**
コーディネーター：柳澤 栄司（東北大学名誉教授）
パネリスト：
① **地震動**（神山 眞（東北工業大学教授））
② **社会基盤の防災1（ガスライフライン施設）**（山川 浩之（日本ガス協会部長））
③ **社会基盤の防災2（水道ライフライン施設）**（高橋 幸至（仙台市水道局主幹））
④ **宅地地盤**（風間 基樹（東北大学教授））
⑤ **社会的課題**（佐藤 宏（仙台大学教授、副学長、元河北新報社論説副委員長））
⑥ **住民からみた問題**（京谷 国雄（鉤取ニュータウン町内会長、一級建築士））
- 16:50～17:00 閉会挨拶（地盤工学会東北支部長 及川 洋（秋田大学教授））

■ 参加申し込み方法と申込先：

氏名、勤務先、同住所、同電話番号、FAX、E-mail アドレスを記して FAX または E-mail で申し込み下さい。詳細は地盤工学会東北支部ホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/tb-jgs/index.html>）をご覧ください。

（社）地盤工学会東北支部 事務局 〒980-0802 仙台市青葉区二日町 17-21 北四ビル 2 階
電話 & FAX: 022-711-6033 E-mail: jgsb-tohoku@luck.ocn.ne.jp

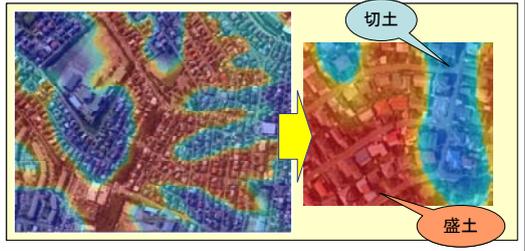
<余興>

あなたの宅地を診断します！

限定20名、先着申込み順

受付：12時～13時

診断結果はシンポジウム終了後にお伝えします！



**来場者のご質問にも
お答えします！**